

令和4年度 第4回 那覇市I T戦略会議

日時：令和4年12月8日(木)

場所：那覇市役所本庁舎10階会議室

稲垣議長 みなさんおはようございます。お揃いになりましたので、これより『那覇市I T戦略会議』を始めさせていただきます。審議に先立ちまして、本日の会議を公開することについて皆様に報告します。本日の会議の内容には、個人情報に関するものや、公開することにより公正さが阻害される内容は含まれておりませんので、公開としております。公開手法についてはオンラインで配信をしております。本日は、はじめに事務局より、前回のI T戦略会議で各委員よりご指摘をいただいた内容を踏まえた対応方針について説明がございます。その後に、論点として、各取組事項においてより実効性を高められるアクションについて、議論を行っていただきたいと思います。委員の皆さんにおかれましてはこれまでの経緯、知見から忌憚のないご意見をいただければと存じます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。次第の2について事務局から説明をお願いします。

事務局 おはようございます。事務局の又吉です。本日もよろしくお願いいたします。それでは、第3回I T戦略会議、委員発言要旨及び対応方針について説明いたします。

事務局から第3回I T戦略会議の指摘事項について対応方針を説明（*説明内容は省略）

稲垣議長 はい、ご報告ありがとうございました。前回までの委員の主なご意見は網羅されていると思います。対応方針についてはすぐさま結論が出るというものは少なかったかとは思いますが、戦略会議の対応方針ということで盛り込んでいただいていますので、今後出来る限りの進展が見られることを期待しております。申し遅れましたが、今日の出席状況ですが常盤木委員が業務の都合で欠席ということでございますが、その他の委員は全員ご出席でございます。続きまして、次第3の本日の論点について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局の高橋よりご説明申し上げます。
それでは、委員の皆様から議論いただきたい論点について説明いたします。

事務局から第3回I T戦略会議の論点の説明（*説明内容は省略）

稲垣議長 はい、ありがとうございます。それでは、今ご説明のあった内容に関して委員の意見をいただきたいと思います。ご意見をいただきたい項目が六項目ございます。この六項目の内のど

れに関するご意見でも結構でございますが、ただ、お一人の発言は五分以内でお願いできればと思っております。どなたかまずご意見いただけませんか。それでは島袋副議長お願いいたします。

島袋副議長　確認からですが、今回の計画策定のスケジュールにおいて、従前の業務プロセスの把握については、基礎的且つ大事なところになっていると思いますが、業務プロセスの把握は現在どのように行われているのでしょうか。例えば、部署から代表者を呼んで各業務がどうなっているのかとか、あるいは、全体がわかる人に代表して聞き取りしているのかとか、どのような形態で現在の業務プロセスを把握されているのか、まず確認したい。

事務局　ありがとうございます。現状といたしましては、業務プロセスの見直しを全庁的に同一的に何か基準を設けて実施することを未だ行なっていないで、個別の業務で見直しが必要だというような事例が出てきた場合に業務単位で見直しを図っています。ただ、それもまだノウハウ、知見が蓄積されていなくて、担当者や携わる人によって様々なやり方があり、組織的に何か共通的に行っているということではないです。

島袋副議長　これまでの話を伺っていると、業務改善を目的とするコンサルの中で現在どうなっているのかということを基礎的にやり、その次にバランススコアカードを作っていくという前提ですので、業務のプロセスを細分化していくことになると思います。その細分化される時に、一番のメリットとしてはそれぞれの担当者が何をすることが明確になっていくことがありますが、他方では基準として書かれたものを担当者がどう受け取るか、これだけやればいいんだというふうなことになるとうと自発性を削いでしまいがちになるので、現在の業務プロセスの中から自分達はどのように改善していくのか、それぞれ担当者が自発的に参加してもらう機会を作ることが必要だと思います。何か基準決めたのでこれをやりなさい、必要だからやりなさいと言うと自発性に見えて、ある意味これは強制された自発性となり、強制されたものでしかなくなってしまいます。担当者が自ら関わって変革をしていくという自主性をどのように担保するかということは、大事なポイントだと思います。

稲垣議長　そのポイントについてしっかり意識しておきたいと思います。続いて、若宮委員お願いいたします。

若宮委員　私は自治体さんをお邪魔する機会が多いので、この手の話は色々聞いております。何が肝かと皆さんに伺いますと、現状業務の棚卸し、大掃除、整理整頓だとおっしゃいます。現状業務をそのままオンライン化するのではなくて、とりあえず全部、今何をやっているのか棚卸しをして、その中で、例えば、ある課でやっていることと重複しているのではないかと、これは

この機会にもう止めても良いのではないのかとか、色々検討して、オンライン化するものではないものに分けてしまうことが大事だと思います。整理整頓をして色んな部署でダブらない、あるいはここで実施したら穴が空いてしまったので穴をどうするかとか、そういったことを整理整頓した上で検討しないと失敗するという話を聞いております。

稲垣議長 ありがとうございます。現状、市役所の中でこれは昨年まで何年も続けてきたことだから今年も実施しなければならないということが多いと思いますが、そろそろこれは実施しなくても良いのではないかといった検討をオンライン化する以前に議論をする場はあるのでしょうか。

事務局 現状はないです。

稲垣議長 そうすると、業務がどんどん増える一方ですね。そういった視点の検討も大事かと思いました。若宮委員ありがとうございます。それでは続いて島田委員お願いします。

島田委員 ありがとうございます。本日もよろしくお願いいたします。報告かつ今回の議題というところでまとめていただき、いつもありがとうございます。全体を通じて共通するかと思いましたが、もしかすると、カバー出来ていない六項目の内の何かがあるかもしれませんが、現時点で思ったことを伝えさせていただきます。意識の醸成というところに関しては、とても色々と実施していらっしゃるんですが、研修も実施しているし、色々伝えているしということであれば、次は「やる」ことしかないので、いざ「やる」となったら、私は社員に「火事になったと思え。」と言っていました。火事になってしまっただけで全部無くなった時に、それでも本当に残るもの、やるものは何なのかということを社員に聞いていました。営利企業ですと倒産とか、評判の問題など気にする必要がありますが、そういったことに関わることでなければ何でもやっていいからということ伝えて、とにかくアクションを起こしていました。その時に捨てるものは何かということを考える場を設定して検討していました。

次に、やっていくとなった時の一つの参考になると思ったのが、アジャイルという考え方で。これは私がいたユニリーバでも取り入れまして、非常に効果がありました。通常、ガントチャートを書いてウォーターフォールという言い方をしますが、スタートから終わりまでプランして一個ずつ進めていくことは既に行って来ていると思いますから、そうではなく、例えば、完成度が六割七割であったとしても一回終えてしまっただけじゃあ次いつてみようという感じで、二週間とか一ヶ月単位でプロジェクトを回していく手法です。那覇市の皆さんは、この会議を毎回、毎回、次に進めてくださっていて、すごい力だと、ミーティングの価値がものすごく高いなと思いますので、だからこそ調べられてみたら結構なヒントがあるのではないかと思います。そこの中にあるスクラムというやり方だったり、かんばん方式だったりとかを行なってみたら、次に行くということとか、どのようにコミュニケーションとっていくとか、

もう役職が違うからなかなか難しいと思うところとかも、一掃されるのではないかなと思います。だから、アジャイルという手法を行なってみたらどうかと思います。

それからコミュニケーションについてですが、社内外、庁内外含めてですけれども、メールは本当に遅くて古くて、やっぱり今はS l a c kですとかF a c e b o o k、M e s s e n g e rとかを一番使います。ただプロジェクト管理となっていくとT e a m s、S l a c kのようなツールをうまく使っています。ちょっとしたコミュニケーションを創発するためには、スタンプはとても有効なので、気軽に役職を超えて対話出来る、コミュニケーションが出来るみたいな工夫を那覇市さんが取り入れたら結構いい事例になるのではないかなと思います。私に関わらせていただいている省庁や自治体でもなかなか取り入れていなくて、DX推進室はI Tの戦略室ですから、まずはそこから始めてみたら良いのではないかなと思います。最後ですけれども、事例として他の自治体で何かこういったデジタルのツールを活用したコミュニケーションを取っているところと言うと、ご存じだとは思いますが、会津若松市や前橋市がすごく進んでいるなと思います。個人的に関係者を存じ上げている為、聞いている部分が多いのかもしれませんが、例えば四條畷市の東市長は二期目に入りましたが、当選されてからはこのあたりをものすごく改善されてきて、L I N Eを使って、市民の方から、「道路の穴が空いていますよ」と写真を送ってもらってそこを見に行くなどしています。簡単なシステムなのですが、住民の方に取り入れてデジタルをうまく使ってコミュニケーションを取っているのです、そのようなことも参考になるかなというように思いました。以上となります。ありがとうございます。

稲垣議長 ありがとうございます。貴重なご意見をいただいたかと思います。続いては福島委員お願いいたします。

福島委員 島田委員からお話が合ったように毎回とてもしっかりと資料を作ってくださいありがとうございます。前回の会議の内容がきちっと議論されて反映されていて、あれはどうなったんだろうというのがなくなっている、とてもやりがいがあるなと思っています。私からのコメントなんですけど島田委員からもあったようにアジャイルという観点は私も大事だと思います。もともとI Tプロジェクトの進行から始まったやり方で色んな業務にも適応できるだろうということで、今とても広がっているやり方だと思っています。今からお話する内容はアジャイル型のやり方になるかと思いますが、是非参考にいただければと思います。公民連携の部分でシビックテックの話が出ていますが、シビックテックを進めていくことはとても大事に思っていて、公民連携の中でもとても大事だと思っていますけれども、今後どうやっていくかという中では抽象的になりますが、シビックテックそのものの土壌を地域に作っていくことが一番大事だと思っています。シビックテックコミュニティはシビックテックの土

壤を作ることによって出来上がると思っていまして、市民のコミュニティだけが頑張っているのではなくて、行政も民間企業もシビックテックというものの理解がどんどん広まっているほど、シビックテックの力を生かしていけるような地域になれると思っています。コミュニティだけが独り相撲しているようなところだとなかなか挫けてしまいますし、シビックテックの話題を日常市民の方たちが言えるようなぐらいまでになっていくことが大事なことだと思います。その状態になるには長いスパンはかかりますが、そういうことをファーストステップから初めていって、最初の成果として、那覇でも活動するようなシビックテックコミュニティの誕生になるのだと思います。既存のいろんなコミュニティもあるので、そこの助けも借りながらそういうものが出来ていって、NPOや行政と連携していくことが大事だと思います。今、バランススコアカードに書かれているような施策を実行していくことによってそういうことが実現できるのではないかなと思うのですが、思いとしては、シビックテックの価値を地域にちゃんと発信していくということは大事だなということを感じています。

「あれ、何をやっているんだろう」というのではなくて、行政としても積極的に対応していくことによって様々な方が関わられるのではないかなと思っています。

もう一つはユースケースですが、まずは、特定の領域を最初に選んでいただきたいと思います。それが何かは那覇市さんに是非選んでいただき、多くの領域は複数の課にまたがるものが多いと思いますが、例えば観光といっても、主になるところは観光課かもしれませんが、様々な課が関わって観光が成り立っていると思いますので、そういった意味では観光でもいいですし、他の領域でもいいので特定の領域を選んで、そこでユースケースをまず考えていただければと思います。実現するためにはどんなデータを様々な課から出せるのかという、前回の議題でプロジェクトチームを作るという話がありましたけれども、まさにそれになるのかなと思っています。プロジェクトチームを組織して、そこからデータを使ってどんなものを出せるかというのを庁内横断型で是非検討いただいて、その結果、データが出ることで利活用もちろんユースケースも活用事例になるかと思いますし、そのユースケースを達成するようなことを初年度で、そこまで行けなければ2年間でも結構ですから是非実現してサイクルを回すという形で、それが成功事例となるように頑張りたいと思います。そうするとさらにこの領域はどうだろう、この領域もどうだろうと広げていけますし、成功したやつをもっと深くやっついこうという形で進めるのではないかなと思っています。一個領域を持って回すということ、そして、そのため庁内横断型のプロジェクトチームを是非作っていただきたいと思いますということです。

最後にもう一つ、ペーパーレスにも関係してくるのですが、そのために是非データマネジメントというものを那覇市として重要視してはどうかなと思います。文書管理規定というのがどの行政にもあるのにデータ管理規定についてはないねと考えており

まして、今は文書管理規定も大事なんだけど、様々な業務の中で生み出されているデータはペーパーレスにしないとそれはデータ化されにくくなってしまう。ペーパーレスと合わせてたくさん生み出されるデータをどう管理して利活用できるか、これはオープンデータにもつながっていくと思いますので、データ生成から利活用までを庁内でどうルール作りをしていくか一度考えられてもいいのではないかなと思います。私からは以上です。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。続いて中島委員よろしく願いいたします。

中島委員 若宮委員、島田委員がおっしゃったように、とりあえず今現行にあるものを流行りの言葉でいうと断捨離ですが、棚卸をさらに進めて断捨離というちょっと未練があっても捨てちゃうというそういうやり方で、業務の再整理、再編成をしていくということは大事だろうと思います。また、アジャイルという仕組みは、一度決めたらそのプロジェクトを完成させるためには止めないというような発想ではなくて、途中でもある程度の成果を得たということで次へ進んでいくこと、あるいは、これも六割やったけれど止めようということになっても責任は問わないというぐらいな時期を設けてもいいのではないかとということだと思いました。それからLINEを使って市民からの情報発信を受け止める話ですが、これは道路に穴が空いてる時は行政の仕事なんて思わずに市民が自分事と考えるような土壌を作っていこうということだろうと思います。そのためには何か言ったらそれがすぐ反映されるような役にたったという充足感が得られるように、すぐに応答できるような仕組みにしなければいけないと思います。行政が、これは自分の担当ではなくてあちらの担当だからというふうにぐるぐるたらい回しで、一週間たっても何の有効な応答がないということでは、発信した意味がないということになって、皆が自分事に出来なくなってしまう。自分事に出来るように市民の声を常々聞くような仕組み、今LINEが一番色んな自治体が利用しているようなので、LINEをどう使って日常的に市民が声を発信するような仕組みを作ったらどうか。そんなに難しくことではないので一週間後にでも始められるような話だと思います。現状、色々な市民の声を聞くのにヒアリングをしているとか、団体の要求で困っていることを聞くとかなど、どちらかというと行政側からの目線で、今色々なことに対処しているようですけども、これは市民が発信してこないから行政の側から聞きに行っていると思うんですけど、そうではなくて市民が、あるいは公民連携でいうと民間の団体が発信しやすいような仕組みをまず構築することが必要ではないかと思います。それも受け手が、担当部署に限らず違う担当の部署からも把握でき、職員の中でやる気のある人がいれば領域侵犯でもいいからこれに対して意見を述べることができ、あるいはそれに参加してやりたいといったことができるようなルールに

変えていくことが必要であると思います。縦割りの仕組みが自分の担当の部署を狭く決めていて、その狭いところには他人には入らせないというような意識が出来上がっているのではないかなという気がいたしました。

それから感想だけ先に述べますけれど、例えばフリーアドレスについて他の自治体の話がございましたけれども、他の自治体よりも今議長の稲垣先生が理事長をされている I S C O は、フリーアドレスです。おそらく関係行政機関では沖縄では先陣を切ってフリーアドレスを四年前から採用しており、良いこと悪いことのノウハウが蓄積していると思うので、那覇市も I S C O の出資者ですから、これこそ縦割りでその実態が届いていないのではないかと思いますけれども、本来、那覇市は I S C O のフリーアドレスの経験を聞ける立場にあると思いますので、意見を聞いていただけたらどうかと思います。

それから考えてきた意見を言わせていただきますと、担当者が手を挙げて自らがそこに参加できるような仕組みを検討いただきたいと思います。これを実現するにはまずはどこにどういう課題があってこういう人を求めていますよというような情報共有の仕組みが必要ですが、これは人事異動を伴うと、すぐには出来ないと思うので、横断的なプロジェクトチームを作って臨時にあるいはパートタイムで別の部署にも参加するというような公募の仕方が必要だと思います。たとえば、実は福祉の担当ですが、教育の方にノウハウがあり興味があるという人が教育のプロジェクトがあった時にそこに手を挙げて、例えば一週間のうち一日だけはそこで業務に携わることができるといったやり方です。これは庁内の兼職の話となりますが、兼職を認めるようなやり方で、そしてこれを上司が止められないというようなルールにすることが大事だと思います。それから庁外の話でいうと、最近色んな自治体でやっているのは、民間企業の従事者を例えば常盤木委員はいい例だと思いますが、週に一日とか月に三日とか副業としてオンラインで臨時職員として活動してもらうやり方です。この手の話は、新聞を見ていると月に三、四件どここの市ではそういう人材の募集を始めましたというものが出ていますが、よく読んで見るとたった一人だったり、三人ぐらいだったり規模から見ると、まだまだ試す段階だなどと思いますが、庁内の中での人材募集だけではなくて、庁外あるいは県外の中でこういうようなことについてノウハウを持っている方、特に D X のノウハウを持ってる方の募集が多いです。その他に S D G s のノウハウのある方、今直面している課題を解決できる人材を庁外、県外に求めて、テレワークでやってもらっています。パートタイムでやってもらうというようなことも検討する必要があるのではないかと思います。それからもう一つ、私が新聞記者をやっている頃に一番感動したのは 40 年も前の話ですが、当時オフィスオートメーションが出始めて、B P R を進めなきゃいかんというような状況になった頃、非常に際立って動いたのは味の素さんです。

当時の副社長の歌田勝弘さんと親しくてよく話していたのですが、その時に、彼が言ったのはまずは人を減らすということです。今人が足りないと言っているけれども、あれは現場が勘違いしている。まず人を減らして三分の二にする。三分の二にすると冗談じゃないと大騒ぎになるが、一年たってみるとその三分の二で仕事をこなせるように業務の仕組みを変えていたということです。まず業務の仕組みを変えて業務を三分の二にするのではなくて、人を三分の二にしたら皆業務の仕組みを真剣に考えるというのが、その当時の味の素のBPRの方法で非常に感動しました。断捨離ができなければこれはもちろん実現しません。断捨離をさせるためにやるべきことというのは、まず先に人を減らすことです。ただ、注意すべきなのは、味の素の場合、人を減らして企業を縮小するのではなくて、新しい事業に人を振り向けて組織を活性化することが目的だった。保有している技術を横展開して多角化を急速に進め、特に医薬品事業に進出するための人材をひねり出すことに成功しました。こういうやり方は労働組合が強いところではなかなか難しいはずなのですが、味の素は労働組合の強いところであるにもかかわらず、労使協調でやれるようになった。これも私としては良いヒントになるのではないかと思います。最後に、前回の議論を非常によくまとめて次へステップを進めていくという、この会議の進め方は非常に素晴らしいなと思っています。皆さんのご努力を評価したいと思います。

稲垣議長

はい、ありがとうございました。たくさんいいアイデアをいただいたと思います。皆さんのご発言いただいた意見は私も大賛成のものばかりですが、私なりに付け加えさせていただこうかなと思います。中島委員からご紹介がありましたけれども、三年弱ISCOという組織の理事長をしております、その経験から少し申し上げます。一つは最初の動機形成のところですが、私は人事交流というのが非常に効果があったというご報告をさせていただきます。二つありまして、一つはコロナの一番大変だった時にお店は休んでください、その要請に協力してくれたところには協力金をお支払いしますという全国でやった制度の運用を沖縄ではISCOが担当させていただきました。当時、通常業務がある中で、膨大な業務をどのように処理するかという方法を考えまして、コロナで一挙に仕事がなくなってしまった同類の事務を行っていた会社と提携することにしました。具体的にはレンタカー会社です。レンタカー会社は運転するのは借りた人ですが、社員はコールセンター業務が中心で、データの扱い方、コミュニケーションが中心のお仕事でございまして、彼らはコロナでレンタカーを全部廃車にする、借りているものは返す、事務所も閉鎖するという動きが続いた時に大手の県内のレンタカー会社一社がコールセンターの機能を全く維持しつつ、我々の職員として出向していただく形で両方にとってメリットのある人事交流が実現できました。その後、彼らはレンタカーの需要が回復するにつれて元に戻っていったん

ですが、今後、もし同じような業務が県や市で発生しても、我々はそのノウハウはレンタカー会社がお持ちですよということで民間に担っていただける、我々はまた新しい分野を開拓することで社会全体のDXに向けて一つ駒が打てたかなということです。

もう一つは先月大きな展示会、商談会、リゾテックエキスポというものをこの三年弱でコロナの期間にも関わらず、一万人規模のイベントを一度も延期も中止もせずに行い実施出来き、大変幸運だったんですが、この業務のために航空会社から客室乗務員の大変優秀な方に二人出向していただきまして、事務局で働いていただきました。航空会社としてはようやく次年度から客室乗務員の採用を復活するというニュースが今朝あったばかりですけれども、当時は、大変余剰人員に苦しんでおりまして、優秀な方ですから一度辞めてしまうと知識、能力のある方を一挙に採用するという事はなかなか難しいということで、どうやって維持しようかということでご苦労されておりました。我々としても、航空会社関連のシステム会社にイベントに出ていただくことは大変効果がありますし、東京での営業活動というのも沖縄からはなかなか細かいところには手が届きませんのでありがたい状況でした。中島委員の話の中に必要な人材の採用をどんどん幅広く進めたら、新しい形で進めたらいいじゃないかというお話がありましたが、この出向という人事交流は期間が過ぎると元に戻るところが面白いところで、せっかく仲良くなったのにお別れですねということになるんですけれども、その後も個人の関係は続きますし、お互い相手のノウハウを持っている形で元に戻るものですからこれから先、組織間のつながりが非常に有機的に効果をもたらすということがあります。他の組織の例を沖縄でいいますと、十年ほど前に県の教育長で沖縄の学力テストで全国の中で学力が低いという大問題が起きた時に、県の教育長が全国でも基礎学力が高い北陸・東北地方の学校の先生との人事交流をしました。規模は大変小さかったんですが最初は北陸・東北で学力が高いのは雪が降って外で遊べないからだ、沖縄は暖かいから夜まで外で遊んでいるからだよとか、のんきなことを言っている人がいましたけれども、実際交流してみると彼らのやっていることの素晴らしいところに初めて気が付きますし、逆に沖縄のいいところに彼らは大変感動して帰っていただきまして、その後も交流が続いているという大変いい事例でございます。話が長くなりましたけれども、人事交流というのを上手に取り入れていただくと、日本人の組織ですと、とかくでしゃばりは嫌われますが、務めをちゃんと果たしていないと恥ずかしいところもありますよね。このでしゃばりが嫌われるのとちゃんとやってないと恥ずかしいというところも、近い他人だとしょがないねということになるのですが、遠くの知り合いがいてそのことに気を使っていると連絡もたまにきますし、これもちゃんとやっておかねばいけないなと思うし、また彼らがこういうヒントをくれましたよということで、でしゃばりやすくなりますし、そういう点でもいいんじゃないかなと思いました。まず、人事交流に関する意見でございました。

もう一つ付け加えますけれども、これも中島委員からの続きで、フリーアドレスですとかあるいはテレワークというものをISC Oが沖縄ではいち早く導入しました。テレワークに関しては確におっしゃる通り、一時テレワーク率が60パーセントを超え、県内では最も進んでいると言われました。全国でもテレワーク100選というイベントがありましてその中の一社として沖縄では我々だけが選ばれたこともございます。このテレワークについて職員アンケートを取ったところ、生産性の項目については少し上がりましたとか、変わりませんという回答が大部分だったんですが、二年経って色々な数字から分析してみますと、部門によって下がっているところがありました。このことから、全体的に一律のテレワーク率ですとか、フリーアドレスを導入するとまた弊害が出てくるということも少し分かりましたので、こういったことは職種、業務によって異なるという前提で柔軟な制度で取り入れるということが大切だと思います。全体としての生産性を維持しないと、揺り戻しが来て生産性が上がったところが逆に下がってしまうということがありますので、テレワーク、フリーアドレスは一律ではなく、職種、業務ごとに柔軟に導入することが二つ目の申し上げたいことでございます。続いて、若宮委員お願いします。

若宮委員 今のお話で一つ付けましたと、沖縄の方たちというのはすごく色彩感覚とかが優れていまして、学力はどうかかわからないですけどもアート系のコンテストで小学生なんかが一番強いので、そういう地域性も生かしていただければと思います。申し上げたかったのは断捨離のところですが、ただ断捨離をするだけではなくて廃棄規定も改めてオンラインになったら見直す必要があると思います。というのはこの間も警視庁等が重要な書類を廃棄基準でもってどんどん廃棄してしまったという事案がありました。紙の時は倉庫がいくつあっても足りないということがあったと思いますが、デジタルで記録を残すんだったら廃棄基準とかも改めて考え直しても良いと思います。その時に重要性とか将来に残す必要性が高いものとかも加味して断捨離の反対、得捨離もご検討いただきたいというのが追加の意見となります。以上です。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。ビッグデータの時代で継続的に発生するデータを手間をかけずに大量に保管して置くといった新たな可能性が出てくるということで、これは捨てないようにしなければいけません。また、最近、裁判所、あるいは児童保護で重大事件の記録が次々に廃棄されたというのがニュースになりましたけれども、どういう情報を残すべきかということについても、一定の見識が必要だなと思いました。一通り皆さんからご意見を伺いましたけれども追加でもう一言という方がありましたらどうぞ遠慮なく挙手をお願いします。島田委員お願いします。

島田委員 ありがとうございます。参考までにということで、例えばペーパーレスとかフリーアドレスとか働き方という観点でオフィスの仕様であったり、どんな規定を設けてというところはユニリーバの事例はかなり使えるのではないかと思いますので、ヒアリング等々お役に立てることがありましたら、言っていただければと思います。以上です。

稲垣議長 他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。時間はまだ余裕がありますけれども一通りご発言いただきましたので、よろしければ先に進めたいと思います。みなさん忌憚のないご意見ありがとうございました。本日の議論はこれにて終了といたしまして、事務局より諸連絡があるということですのでお願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。本日も委員の皆様より色々な示唆をいただきありがとうございます。この審議会の進め方にお褒めいただきまして本当に嬉しく思っております。そういう言葉があるとモチベーションが上がって次も頑張ろうと思いますので、これをDX推進計画策定の動機形成に活かしてしていきたいと思っております。私たちチームで動いているのですが地元にいるNTTコミュニケーションズさんの皆様とか東京にいるNTTデータの皆様のサポートがあってこの会が成り立っていますのでこの場をお借りしてチームの皆様にも感謝したいなと思っております。もう一点よろしいでしょうか。今色々お話を聞くなかで、これはどうやって進めていこうか、だとかこれはハードルが高い、これはすぐ出来るなとか想像しながら話を聞いていたのですが、私たちが成功の鍵と思っているのがスモールスタートで成功体験を積んでいくというところが必要かなと思っております。今話に出ていました、物事を進めていく上で有効になるアジャイルというキーワードがございました。このアジャイルについては、概念的なことは分かるんですが、これのどういうものがアジャイルなのかとか、六割七割で良いというのは分かっているんですが、これがどのくらいの匙加減なのかとか、どのくらいのスパンで回すのかとか、行政の職員ではなかなか肌感覚がないので、スモールスタートの中でアジャイルという手法を体験しながらチャレンジしていきたいなと思っております。これはNTTデータの皆さんと一緒に検討していきたいと思っております。どうしてもリスクを先に考えてしまうとアジャイルというところが出来なくなってしまうので、リスクの取り方も含めて体験といいますか、考えていただければいいなと思っております。そのあたりについて何か機会があればご助言いただければと思います。以上、よろしく願いいたします。最後に諸連絡といたしまして、次回の会議は期間が空いてしまうのですが、3月を予定しております。今までいただきましたご意見であったり、庁内の会議であったものを取りまとめて素案を作成していきますので、その後にご意見をいただく場として三月を予定しております。また、手続きにつきまして押印であったりとか請求書を送付していただいたりとか、ご

面倒をおかけしておりましたが、そういった手続きについて財務で調整が整いまして次回からは押印なしでご請求出来ますので、詳細はN T Tコミュニケーションズの方からご連絡したいと思います。このように一つずつ進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

稲垣議長 最後に島袋副議長から締めの挨拶をしていただいて今日はこれで終わりにしましょう。

島袋副議長 この間時間的にも短い間で内容の濃い議論が出来たのではないかと思います。これは市役所とN T Tで具体化してくれるということなので次回また三月にその確認と成果を見たいと思います。皆さんどうもありがとうございました。お疲れ様でした。